

枚方中国語を学ぶ会だより

2018年9月号
枚方中国語を学ぶ会

ようこそ枚方中国語を学ぶ会へ

23人の新入会員を迎えて歓迎会

例年、新入会員を迎えて開かれる「新入会員歓迎会」。今年は、6月13日、蹉跎生涯学習センターで行われ、17人の新入会員を含めて57人の参加がありました。

日中関係が少し改善の方向にあることを受けて、今年は、入門班

だけでなく、初級、中級、上級Ⅰ・Ⅱ班にも新入会員があり、合計23人（8月11日現在）の新しいメンバーを迎えてのスタートとなりました。歓迎会も熱気にあふれたものになりました。

歓迎会では、西川会長の歓迎のあいさつの後、参加された新入会員の自己紹介がありました（写真上）。続いて、この1年間で中検に合格された初級班の岩瀬智美さん（準4級）と中級班の佐藤智子さん（4級）が表彰されました。その後、各班の老師から「今年の抱負」が語られ（写真中）、参加者も決意を新たにしました。

そして、懇親会にうつり、歓談が進む中で、クイズなど各班の出し物で盛り上がりました。懇親会の最後を飾ったのは、恒例の中級



班・井野さんの「南京玉すだれ」でしたが、今年は、入門班・市岡さんの飛び入り（写真下）で、会場は拍手喝采。大いに沸きました。

最後は、今西事務局長の締めめの挨拶と一本締め。楽しかった歓迎会が幕を閉じました。

哈尔滨プチ留学記

上級Ⅱ班・磯野雅治



9月1日から（閑空閉鎖によって）12日まで、哈尔滨の濱才汉语学院にプチ留学してきました。

午前中は口語、午後は閲読の個人授業をそれぞれ100分づつ。相当ハードな学習でした。老師は「一週間では力がつかない」と言いつつ、とても熱心に教えていただき、たくさんの中国語を話し、nとngやtaとdaの発音の区別などを初心に返って学び直せました。

食事や買い物など、中国語しか使えない環境で、たっぷり聴いたり、話したり。文字通り多听多说を体験できた10日間でした。

西川会長の中国語余話⑩

今回は‘的’について考えます。

一般に、「‘的’＝の」、と簡単に理解されていると思います。実際に、両方の辞書を調べてみると、‘的’も「の」も非常に複雑であることがわかります。

従って、日本人も中国人も両者の使い方について、よく間違いが指摘されています。

中国人は、中国語の‘的’の影響で、‘我来的时候・我吃的饭’をよく「私来るの時・私食べるのご飯」と言い間違っ

一方、日本人は、‘中国老师・日本留学生’を「中国の先生・日本の留学生」と誤解しがちです。‘中国老师・日本留学生’は、正しくは「中国人教師または中国人の教師・日本人留学生または日本人の留学生」となります。そうすると、「中国人の先生」をそのまま‘中国老师的老师’と言ってしまうと、中国語としては、「ある中国人（その人）の先生」というややこしいことになってしまいますので、‘中国老师’と言わなければなりません。

ほんと大変ですね。
